

岩手県沿岸部の現地踏査報告

静岡大学防災総合センター 准教授 牛山素行

2011年3月11日14時46分頃に、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、気象庁はこの地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名した。また、この地震によって引き起こされた災害を「東日本大震災」と呼ぶことが4月1日に閣議決定された。4月14日現在の警察庁資料によれば、この震災での死者は13392人、行方不明者15133人に上っており、その後も増えつつある。これは、明治以降の日本の自然災害による犠牲者数としては関東大震災に次ぎ、明治三陸津波を上回る。社会インフラなどが大きく異なる明治、大正時代の災害と同程度の被害が現代日本で生じたことになり、極端な現象が発生したことは言うまでもない。

報告者は、2011年3月29日から4月1日にかけて、岩手県陸前高田市～宮古市にかけての沿岸部を現地踏査した。全国で唯一の2列の大防潮堤が構築されていることで知られる宮古市田老地区では、一列目の防潮堤は完全に崩壊し、その後方の集落はほぼ消滅していた。山田町では津波に町が襲われた後に大規模な火災が発生した。同町内では、阪神大震災の際にほぼ火災を生じなかったガソリンスタンドすら全焼しており、津波に伴う火災の激しさが伺える。陸前高田市は、中心市街地がほぼ完全に流失し、海岸に近い地区ではいわゆる「瓦礫」すら流失して砂漠のような状態になっている。

明治以降の日本で死者・行方不明者が多かった自然災害上位5位(理科年表)

1. 関東大震災	1923/9/1	約105,000人
2. 明治三陸地震津波	1896/6/15	21,959人
3. 濃尾地震	1891/10/28	7,273人
4. 阪神淡路大震災	1995/1/17	6,437人
5. 伊勢湾台風	1959/9/26-27	5,098人
東日本大震災	2011/3/11	28,000以上



岩手県宮古市田老地区



山田町のGS火災跡



陸前高田駅前付近



釜石市唐丹本郷

学校における積極的な避難

- 釜石市 当日在校の児童生徒の死者不明者0人
- 指定避難場所だったがより、高所に避難して児童生徒は全員無事
 - 気仙小、大船渡小
- 在校の児童生徒は全員高所に避難して無事だが、保護者が引き取った少数の児童が死亡
 - 大槌小、田老第一小ほか
- 低地にあり、訓練通り高所避難して全員無事
 - 綾里小、越喜来小、気仙中

多数の犠牲者は生じたが、迅速な避難により被害が軽減されたケースも少なくない。小中学生の犠牲者は、岩手・宮城の2県で1000人以上に上るが、学校での集団的な遭難は宮城県石巻市での1例を除きみられない。特に岩手県では、学校単位で訓練時よりも高所への避難が行われる

など、臨機応変な対応が被害を軽減した可能性が示唆される。また、明治三陸津波、昭和三陸津波などを教訓として実施された、集落毎標高の高い場所に移転する「高地移転」を実施した地区(たとえば釜石市唐丹本郷)では、移転集落が完全に津波の被害を免れており、今回ほぼ唯一十分に機能した津波防災対策と言えそうだ。

津波災害は、地震災害と異なり、迅速な避難や日頃からの避難計画・訓練が人的被害の軽減に直結する。地震に対する警戒も無論重要だが、津波に対しても具体的なイメージを持つ必要がある。